

カルメル

霊性センターニュース



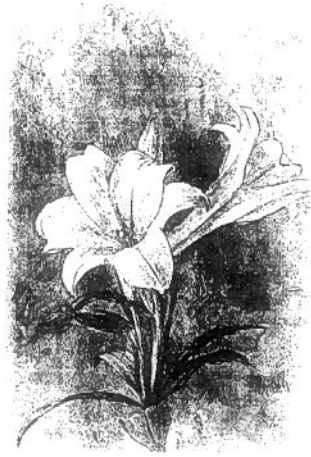
2014年9月

301号

## 目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	42
編集後記	43

# 心の泉





## 第二巻

### 第七章 すべてを超えてイエスを愛する

#### 1 友である神

イエスを愛して、イエスのために自分を軽蔑することの真の意味を理解する人は幸いである。その愛は、すべての愛を超えるものでなくてはならない。なぜならイエスは、ご自分一人がすべてを超えて愛されることを望んでおられるからである。被造物への愛は、誤りやすく、変わりやすい。しかしイエスへの愛は、誠実で不変のものである。はかない被造物により頼もうとする人は、それと共に倒れる。しかしイエスのほうをとる人は、いつまでもゆるがない。皆があなたを離れ去っても、あなたから離れることなく、あなたを滅びから守るお方こそ、自分の友として愛しなさい。望む望まないにかかわらず、いつかあなたはすべてから決別しなければならない。

#### 2 イエスにとどまる

生きている時にも、死ぬ時にも、いつもイエスの近くにいなさい。他のすべてがなくなっても、あなたを助けうる唯一のお方の真実に、あなた自身をゆだねなさい。あなたの愛するお方は、他人がその愛に割りこむのをゆるさず、ご自分一人だけが、心のなかの王座に座ることを望まれる。もしあなたが、すべての被造物を心のなかから遠ざけるなら、イエスは喜んで、あなたの心に住まわれる。イエス以外の人間をよりどころにすれば、それはあなたにとって、無きに等しいものであると知るにちがいない。風にゆれている葦により頼もうとするな。「すべての肉は草のごとく、その光栄は野の花のように枯れる」(一ペトロ 1・24 イザヤ 40・6)。

## 人を赦す (11)

くのり  
九里 彰

「主の祈り」の古い訳と新しい訳を比較しながら、前回は、「人を赦す」ことについて考えてみた。(古い訳は、「われらが人に赦すごとく、われらの罪を赦したまえ」。新しい訳は、「わたしたちの負い目を赦してください。わたしたちも自分に負い目のある人を赦しますように」。)

私たちが赦すのは、自分とかかわりのない人の罪ではなく、自分に対して罪を犯した人の罪を赦すということであった。だが、だれにでも、「あの人だけは赦せない」という人が、人生には一人や二人、いるのではないだろうか。

しかし、これに対して、キリストは言うのである。「赦しなさい。そうすれば、あなた方も赦される」(ルカ 6・37) と。

そこで前回指摘した第二の疑問が登場してくる。すなわち、「人の罪を赦すことが、自分の罪が赦されることの条件なのか」というものである。この問いに対してキリストは、「主の祈り」を弟子たちに教えた後、こう続けている。

もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたの過ちをお赦しになる。しかし、もし人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しにならない。(マタイ 6・14-15)

要するに、人を赦さなければ、私たちは神から赦されることはないということである。その意味で、人を赦すことが、自分が赦されることの条件となっていると言える。

実際、人を赦さないという思いがある限り、私の心は自由ではない。「Aさんという人を絶対赦さない」という人を厳しく裁く心が、私の心に居座り、その心が無意識の内にBさんにもCさんにも向けられるからである。Aさんに対して使った物差しを、それ以外のBさんにもCさんにも適用することになる。一つの小さな癌細胞が次々に転移し、広がっていくように、私の心は「肉の心」から「石の心」へと変質してゆく。人を赦さない限り、人を裁く心から、私は自由になっていないのである。それは、言葉や行いの端々に吹き出てくる。

## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (83)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### 「警官」さえもいた

十字架のヨハネは、抑圧的な、あるいは悪い意味での警察的な教育を、まったく好みませんでした。けれども、当時の修道院には「警官」と呼ばれていた者がいました。こうして、グラナダの修道院では、警官となった者は、共同休憩の間、会話がより建設的でない方向にそれていかないか目を光らせていました。会話がうまく行ってないと思った時、警官はひざまずきました。一同はよく考え、会話の方向をもとにただすかテーマを変えました。

この種の警官は、その当時の警官とは全く関係はありません。彼らは、「犯罪者を捕まえ、集め、裁判官によって裁いてもらうために牢屋に送り込む正義のしもべ」でした。修道院の警官の場合は、その身振り手振りによって、修道者の一人ひとりが、自分自身を裁いていました。正しくなかったことや自分にとって正しいと思われたことなどを。

その世紀には、次のような一種の諺がはやっていました。「各人がそれぞれ自分の警官を持っている」。それは、すべての者が不幸に遭うということの意味しているようです。良い時もあり、悪い時もあると。



# ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（179）



## イエスの物語を伝えること

教会は、イエスの福音を、すべての人々とすべての国々に告げるよう招かれています。教会は、イエスの愛を目に見えるものとする多くの愛の業に加えて、イエスの生涯、受難、死、復活を通して、神の救いの偉大な神秘をも、喜びをもって告げなければならないのです。イエスの物語は、公に宣べられ、祝われるべきなのです。ある者は聞いて喜ぶでしょうし、ある者は無関心のままでしょうし、ある者は敵対的となるでしょう。イエスの物語は、必ずしも受け入れられないでしょうが、伝えられねばならないのです。

この物語を知り、それを生きようとしている私たちには、それを他者に伝えていくという喜ばしい仕事があるのです。私たちの言葉が、愛と感謝に満ちた心から湧き上がってくるならば、私たちがその実を見ることができようと思えまいと、それらは実を結ぶことでしよう。

(1107)

## イエスと聖人たちを記念しながら

聖人との交わりに属することは、イエスの霊によって変容されたすべての人々とつながることを意味しています。このつながりは、深く根本的です。イエスの兄弟姉妹として生きた人々は、たとえ死んだとしても、私たちの内に生き続けているのです。それはちょうど、イエスがたとえ死んだとしても、私たちの内に生き続けているようなものです。

私たちは、イエスと聖人たちを記念しながら、この世の人生を生きていますが、この記念は現実の存在です。イエスと聖人たちは、神に関する私たちのもっとも根本的で霊的な知識の主要部分なのです。彼らは私たちを鼓舞し、導き、励まし、希望を与えてくれます。彼らは私たちの絶えざる変容の源泉なのです。そうです、私たちは彼らを心の中で運び、それによって、共に生き、共に働いているすべての人々の前に、彼らを生かし続けるのです。

(1012)

(九里 彰訳)



## 年間第23主日 (A)

みことばのひびき

(マタイ18:15-20)

本日の福音は、キリスト教徒の共同体の中での事態を扱っています。マタイ18章全体はキリスト教徒の共同体の中でのお互いの関係についての話、特に避けられない分裂が起きたときどうすればよいかについての話です。わたしたちは聖人になろうとしている罪びとの共同体で、途中にはたくさん落とし穴があります。本日の箇所で「何か悪いこと」をした共同体のメンバーを扱う三つの段階を見ます。多分これは外面的な行いのいくつかの形で、福音に対する共同体の証しの質に害があります。この節の全体の主眼は、わたしたちは罰することよりも赦すことに向かっていくべきであるということです。

すぐ後でイエスはつなぐことと解くことの力について語ります。「あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐれ . . .」。共同体は誰がキリストの体に属するに相応しいかを判断する力を神によって与えられて持っていることをこの言葉は示しています。福音の証し人として共同体をよい状態に保つために必要な力です。イエスはさらに弟子たちに言われます:「あなたがたのうち二人が地上で心をつなげて求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところにはわたしもその中にいるのである。」キリスト教徒がお互いに真理と愛のうちに会うときにはどこでも、それが祈りのためであろうと、勉強や、決定することのためであろうと、イエスは現存され、話し、行動されます。これは大変なお恵みであり、責任でもあります。わたしたちは自分自身の必要のためだけに祈るのではなく、一致して、共同体の必要に心を寄せて、仲間のメンバーとして祈るのです。わたしたちは共同体の中で、平和と調和、健康、兄弟性、そして連帯感のために祈ります。わたしたちの祈りが利己的でないときには応えられて、神は神的知恵と洞察力をもって、神のなさり方で応えてくださいます。イエスが教会に、イエスの共同体に、そしてイエスの民の中に現存されることに気づくことは大変重要です。

今日教会で、イエスはわたしたちに兄弟的愛の困難な責務を定められています。兄弟的な矯正への困難な義務に近づくためには、多くの資質——勇気、憐れみ、忍耐、やさしさ、謙虚さ、誠実さ、他者の良い点を保つ望み、慎重さ、思いやり、気配り、対話、真の聞き取り、慈悲——を必要とします。ここを読むとわたしたちは話したくないことに沈黙する責任があることを教えられます。教会や共同体の指導者たちが話さないとき、わたしたちは憤慨し、困惑しました。しかし、イエスは本日、わたしたちはイエスのために話し、社会と共同体における悪を矯正していかなければならないと教えておられます。わたしたちは批判するためだけにそこにいるのではなく、積極的に橋を造り、悪を矯正する役に立つためにいるのです。今週、時間を少しとって神に向かう私たちの責任をよく考えてみましょう。わたしたちのまわりにいる人たち、両親、兄弟姉妹、子どもたちや親類、隣人、共働者や同僚、自分の生活に触れる全ての人々の行動に対して、わたしたちはどれほど神に償いをするかを考えてみましょう。裁きの日に神のみ前に出るとき「滅びるように定められている者以外にはだれも滅びない」というイエスの言葉を繰り返すことができるように為すべきことを行きましょう。

(Sr. Paulina)



十字架称賛 ヨハネ 3, 13-17

「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない」  
(ヨハネ 3, 14)。

モーセが荒れ野で蛇を上げた事跡は、旧約聖書の民数記第二十一章にでてきます。苦しい、出エジプトの試練の多い荒れ野の旅の中で、民は耐えきれなくなって、神とモーセに逆らって言ったのです。「なぜ、われわれをエジプトから導き上ったのですか。荒れ野で死なせるためですか」。神は、逆らいの罰として「炎の蛇」を民に送られる。民は、この炎の蛇からの解放を神に願い、神は青銅の蛇を旗竿に上げるように命じられ、それを眺めるものは蛇の毒から救われる。反逆の罰であった蛇が、神の命令に従い上げられることで、救いをもたらす印に変えられています。

今日の第一朗読も、バビロニア捕囚が終わり、隷属と屈辱の土地から、祖国への帰還、自分たちの国、文化、宗教祭儀を再建する希望を持って始める第二の出エジプトといわれる旅を背景にしています。「あなたたちの中で主民に属するものはだれでも、上って行くがよい。神なる主がその者と共にいてくださるように」。この旅が、成功から成功への旅路であり、祖国の再建は、なんの妨害もなく成就されると、期待するのが当然でしょう。しかし、ここでも、待ち受ける現実は、そんな夢を砕くに十分なものでした。第一と第二の出エジプト、どちらも、同じ、パターンを踏んでいます。神の約束された国への旅は、民を神への信頼の限界に直面させるもの、この一步は滅びへの道ではないかとの思いに襲われるときもある旅です。自分の力にではなく、神の約束の言葉にのみ信頼してにみ続けて行ける旅です。しかし、この約束は、自分たちのこれまでの歩み中に、すでに、神が実現の第一歩を始めていてくださったと、信仰の目には確認できるのですが。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」。神は、試練、困難、誘惑に満ちた現実の世に独り子をお与えになった、そして、十字架の死、人間の反逆の罪への究極の罰をも、イエスは、御父への愛と従順、すべての人間への愛の頂点に変えられる。試練、困難、誘惑を死に至るものから、愛と生命に至るものに変えられる。この十字架に支えられながら、わたしたちも、どのような試練、困難の中にも旅を続けて行けるのです。「独り子を信じる者が独りも滅びないで、永遠の命を得るためである」。ルカ渡辺幹夫

## 年間第二十五主日 (A) (マタイ 20 : 1-16)

今日の主日の朗読、旧約と新約、の全体を通して流れているテーマは神の慈しみに根ざした“神の公平さ”です。神は全く公平な方で、わたしたちは個人としてまた共同体としてこの神の公平さを生きるよう呼ばれています。福音は神の知恵がわたしたち人間の価値や判断の基準をはるかに超えるものであることに言及しています。わたしたちは神を熱望し、隣人との親しい交わりを欲することがあります。もともと真の愛をもって他者を愛する素晴らしい力、恵みが与えられているわたしたちは、このようなとき傍らで必要に応じて神と人にとに仕えることができます。マタイの今日の福音は喩え話を通して人の自己中心的な判断と神のなさり方との違いを如実に見せてくれます。この世では、初めにぶどう畑にきた人のように長時間にわたり多く働けば、後からきて少ししか働かない人よりもたくさんの報酬が貰えて当然です。喩え話は神のぶどう畑での奉仕は自分を顧みずにするものであるという気付きを与えます。働きたい人全員に応えたい、これが神の思い（意志）であり神の慈しみ（知恵）なのです。わたしたちも同じ思いと思いやりの心を持つことができますように！

このようなわけで喩え話の鍵は“後にいる者が先になり、先にいる者が後になる”ということです。天の国の公明さ、公正さはこの世の常識とは異なっています。ここでは全てのことは神の恵みによって行われ、個人の手柄や功績とは無関係です。この世で正しいと思われる常識は神の国では通用しません。今日の福音を読むと神は全ての人を同じ時にはお招きにならないことがわかります。本当には神が良いと思われることに人は同意できないのです。主である神はご自分が選ばれた全ての人に恵みをお与えになりたいのです。神はこれら自由にご自身に備わっている力によって行われます。これが神の恵みです。主である神が行われる全てのことは正しく公正で、誰一人非難することはできません。わたしたちの労働は、神への愛と隣人の魂の救いのために真心から行うなら、最後に来た労働者が恵まれたと同じ天の国の恵みに入ることができます。これがわたしたちの賃金です。神の寛大さに驚き不満を言いたくなるくわたしたちは、いかに心が狭く利己的なのでしょう。

神が与えて下さる恵みは何一つわたしたちの功德によるものではありません。それは全て神からの自由な贈り物で自分では得ることも出来ず、またいただく値打ちもありません。神がくださる物は当然支払われるはずの賃金ではなく贈り物です。神は寛大な方です。この寛大さを羨ましく妬ましく思うことはできません。神の神聖な自由さはわたしたちの期待を脇に置いて見えなくなさることもあります、わたしたちを驚かせまた喜ばせるための神の計らいです。ここにも神の優しい思いやりが感じられます。仕事を得られずにいた人たちを気の毒に思われた神は、遅く来た人たち皆にも働く機会を与え、雇い主として彼らが値する以上の賃金を支払われました。慈しみ溢れる神の寛大さに心打たれます。

(Sr. Paulina)

「後で考え直して出かけた」(マタイ 21, 29)。

今日の福音は、祭司長や民の長老たちが「何の権威でこのようなことしているのか。だれがその権威を与えたのか」とイエスを尋問したときに、イエスが語られた「たとえ話」です。ここには、兄と弟、二人が登場し、父親の望みどろりにしたのは、はじめは「いやです」と返答したのですが、思い直して実際には出かけて行って働いた兄だとなっています。しかし、これは、ある有力な写本によれば、兄と弟が入れ替わっています。どちらでも良いのでしょうか。もし第三の息子がいて、「お父さん、承知しました」と答え、実際にも実行したら、その息子こそ、ほめられるべきなのでしょうが、このような非の打ち所のない息子は出てきません。つまり、100点満点の者は一人もいないことになります。自分が何の欠点もない完璧な人間などではない、赦されなければならない多くの傷をもった人間だとの自覚、ここに、福音の言いたいこと、真実な喜びへの第一歩が始まるのではないのでしょうか。

イエスは語り続けられます。「はっきり行っておく、徴税人や娼婦たちの方が、あなたたちより先に神の国に入るだろう。なぜなら、ヨハネが来て義の道を示したのに、あなたたちは彼を信ぜず、徴税人や娼婦たちは信じたからだ」。ヨハネが示した「義」の道は、実に「悔い改め」、神と人々の前に自分が100点満点の人間でないことを心から告白し、赦しを求め、新しくされていく過程に歩みだす者とされる道です。徴税人や娼婦たちは、その道を信じた、つまり、自分の罪を告白し、信頼して自分を委ねたのです。ですからヨハネを信じないということは、自分は悔い改めを必要としてはいないと自負している態度なのではないですか。

考え直す、後悔について思い出すのは、イエスを裏切ったユダのことです。「後悔して」(マタイ 27, 3)と書かれています。考え直して後の取るべき態度の可能性も二つに分かれます。一つは、ユダのように、イエスの赦す愛に心を開かず、自分のしたことの重大さに赦しの可能性も信じられず、自分で精算しようとするものです。二つ目は、イエスの赦す愛に大胆に信頼し、イエスに自分を明け渡し、イエスのみが始めていてくださる新しい生き方に自分を賭ける歩みです。「子よ、今日、ぶどう園へ行って働きなさい」。わたしたちは、イエスに自分を明け渡し働きに招かれています。それは、今日です。 ルカ 渡辺幹夫



今日という一日が終わって「さあもう寝よう あしたはきっといい日」（晴佐久神父様ひめくり）と布団の中に入りますが、眠りが訪れてくるまでのあいだ、私はひとつの詩篇を一定の儀式のように必ず唱えます。もう長年の習慣なので頭が枕につけば祈りは自ずと身体の底から湧き上がってきます。

眠れない夜には幾度も繰り返し唱えることになるので、世に聞こえるあの羊が一匹羊が二匹と同じ類かもしれません。

詩篇はキリストと出会って以来、ずっと身に添い心に添い魂に添う私の絶対の味方で、いかなるときにもいつもいつも近くにありました。

昔のことになりますが、1980年から81年にかけての東京教区使徒職研修コースの「祈り」と題された分科会に参加しました。ご指導いただいた沢田和夫神父さまと一緒に、一年間ただひたすらに詩篇を祈りました。毎月一回の泊研修でしたが、今思い返してもよろこびと苦しみが一つに成るあの透徹した静かな時間、世界に、浸れるように感じられます。その折に、神父さまから素てきなお教えをいただいたのです。

詩篇は同じ節を二度ずつ唱える。初めの一回はイエズスのお声であり二回目はそれに従い做う私の声だということです。心が震えるほどに感じ入りました。

そのように詩篇を祈り長い年月が経ちました。

主イエズスはふり向かれて私をみつめ、立ち止まられて私を待ち、駆け寄られて私を抱き起し、背をさし出されて私を背負われました。主の慈しみとあわれみは私の魂に降り降り積もりました。そうしてイエズスの声と私の声は徐々に響き合い重なり合っていくしかひとつとなり、いつの間にか一節を二度唱えることはしなくなっていました。

詩篇第130篇 **De profundis** 私が暗唱できる唯一の詩篇です。私の羊が一匹羊が二匹でもあり、お守りのような詩篇です。

今にしては夢かと思えるほどの遠い苦しい日々、闇と孤独に覆いつくされた魂の果てない歩みの中で、必死に必死に愛するお方をひれ伏して求めつくしました。握りしめたこぶしの指は一本一本開かれてゆきました。身にも心にも魂にも刻み込まれた **De profundis** です。

一節ごとに執拗なまでに主よ主よと呼びかける信頼と希望のこの祈りは、古今東西多くの人を魅了したようです。オスカーワイルド「獄中記」の原題は「深き淵より」であり、バッハのカンタータにもこの標題をもつものがあり、またルオーにも「深き淵より」という絵画があるそうで、ぜひ見たいと思います。

更にはここに便乗して私自身の厚顔無恥をさらすのですが、稚拙極まりないことを十分承知の上で臆面もなく延々と年を重ねて書き連ねているこの一文、実は当初標題をつけるようにとご案内をいただいて、「深い淵からあなたに呼ばれる」とお答えしたのですが、どう考えても大それたことに思えて標題は取り下げていただいたのです。しかし、おぼつかない稚拙なものゆえにこそ私の魂の祈りであり、切実な「深い淵からあなたに呼ばれる」以外ではないのだとあらためて思い知ります。

眠りにつくということは、何か別の世界へと移りゆくことのようにであり、それは何かとても寂しくとても孤独なことのように思っています。一人でゆく別の世界への通行切手ともいべきものを、私たちは自分自身のために心こめてつくりだすのかもしれませんが。

私は戦時中熊本県の祖父母のもとに弟と二人で縁故疎開をしたのですが、毎晩同じ布団で一緒に寝てくれた祖母は、床へ入って必ず「ありがとうございました」と静かにはっきりと言っていました。雑念のないまっすぐなその一瞬、諦念にも近い深い安堵感は、当時家族と離れた幼い私に毎夜毎夜深く伝わって、それは生涯にかかわる大きなものを残したのではないかと思っています。

また、現在はもう50歳を過ぎている私の次男は、幼児期に一人で寝るときガーゼのハンカチをくわえてちゅくちゅくと吸いながらでないと寝つけませんでした。このことは今なお私の心に深く痛く残っていて、思いを向けると幼い子の不安感、寂寥感、健気さが迫り、苦しいほどの切なさ、悲しみに襲われます。

そしてまた、友人のお孫ちゃんを数時間預かった時のこと、この子眠くなったら自前の子守り歌を自分で歌いながら一人で寝るからと言われ、ほんとうにその通りで感嘆しました。自作自演の歌詞も旋律もはなはだ難解でしたが、満ち足りた愛くるしい寝顔からするとすこぶるつきの子守り歌なのでしょう。

人生の最期の眠りにつくとき、私の通行切手はいかなるものでしょうか。  
**De profundis** でしょうか。

私の耳は主イエズスの「向う岸へ渡ろう」の声を聴き、私の魂はもろ手を開きすべてを放つでしょうか。

# いのちの言葉 9月

神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、  
あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。

(シラ書 28・2)

これは聖パウロが、ローマの信徒に宛てた手紙の締めくくりに書いた、勧告の言葉です。当時のギリシャ・ローマ世界では珍しくないことでしたが、ローマの共同体の信徒たちは、一部がもとユダヤ教徒、一部はもと異教徒でしたので、メンタリティーや文化的背景、精神的な感受性が大変異なっていました。この相違は、相手への裁きや偏見、差別や不寛容へとつながり、神の望まれた「互いに受け入れ合う姿勢」とは異なる関係が築かれていました。

この困難を乗り越えるには、回心の時に受けた恵みを信徒たちに思い起こしてもらおうのが一番の助けになると、使徒パウロは考えました。彼らがイエスの霊をいただいて信仰に導かれた事実は、イエスが愛をもって一人一人を迎え入れたことの確かな証しだからです。彼らの過去や出身の違いにもかかわらず、イエスは唯一の体を構成する者として受け入れてくださいました。

神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。

この聖パウロの言葉は、イエスの愛の最も感動的な側面の一つを思い起こさせます。それは、イエスが地上で生活された時、たえずすべての人を受け入れ、特に疎外された人、貧しい人、神様から一番遠い人を受け入れてくださったことです。人間の傲慢と利己主義により社会に築かれた壁を、イエスは一つ一つ壊しながら、すべての人に信頼と親しみ、友情をもたらされました。私たち一人一人を全面的に受け入れてくださる天の御父の愛と、それゆえ私たちが互いに持つべき愛とが、イエスの内には示されています。これこそ、御父が私たちに望まれる第一のみ旨です。ですから、イエスが私たちを受け入れてくださったように、私たちが互いに受け入れ合うことほど、神の栄光となるものはありません。

神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。

では、今月のいのちの言葉をどのように生きたらよいでしょうか。このみ言葉は、私たちが陥りやすく、乗り越えるのが最も難しい、利己主義のある面に目を向けさせます。それは、自分の周りに壁を築き、人を差別し疎外する傾向であり、自分とは異なる人、平穩無事な生活の邪魔になりそうな人を排除する傾向です。

今月のみ言葉を、まず家庭の中、所属するグループや共同体の中、職場の同僚との間で、生きるように努めましょう。そして、隣人に対する裁きや差



別、先入観や恨み、不寛容を自分の中から取り除きましょう。それらは、たやすくたびたび私たちの心に湧いてきて、人間関係を冷たいものにして損ない、まるで錆のように相互の愛を妨げるものです。

社会生活において、神は、すべての人を受け入れるイエスの愛を証しするよう私たちを招かれ、利己主義の犠牲になって排除、疎外されがちな人々を、私たちの傍らに置かれます。

自分とは異なる他者を受け入れることはキリスト教の愛の土台です。そしてそれは今日イエスが特に私たちを招いておられる「愛の文明」「交わりの文化」を築いていくため、私たちが踏み出すべき第一歩、出発点です。

キアラ・ルービック

\* 今月の言葉は1992年12月に発表されたものです。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

#### ●お知らせ

##### いのちの言葉の集い

関東 9月14日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室

(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 9月14日(日) 14:00~ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」

長崎 9月28日(日) 14:00~長崎 カトリック浦上教会 要理教室

\* 詳細は各フォロー・センターまで。

#### 連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

# 跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

## << Communications (時事通信) >>

聖テレジア生誕500年記念財団は、聖テレジアの年のためにウェブサイトとソーシャルメディアのネットワークを立ち上げました。

2014年8月5日

聖テレジア生誕500年記念財団は、聖テレジアの年のためにウェブサイトとソーシャルメディアのネットワークを立ち上げました。

同財団は、跣足カルメル修道会により、イエズスの聖テレジア生誕500年記念行事のプログラムを組織化するために創られたもので、すでにウェブページ [www.stj500.com](http://www.stj500.com) とソーシャルネットワークサイト [facebook.com/stj500](https://facebook.com/stj500)、そして [twitter.com/STJ500](https://twitter.com/STJ500) を開設しました。

目的は、生誕500年催記念の準備と、文化的、社会的、学問的である一連の活動の進展状況に関して、アクセスし、参加できるよう情報を提供するためです。ウェブページはスペイン語、英語、イタリア語が可能です。

ウェブとソーシャルネットワークページは、寄付をしたい人、行事のスポンサーになりたい会社、活動に参画したい人、写真やビデオを共有したい人、ボランティアになりたい人などのために特別な部門を通して、様々な視聴者が参加できるように呼びかけるものです。

このウェブページは、一般市民に象徴的で感動的な場面を伝達する目的で、世界の各地で催されている生誕500年記念祭の活動がライブで観られるように、ストリーミング・ダウンロード方式を通して生放送するセクションを持っています。

フェイスブック [www.facebook.com/stj500](https://www.facebook.com/stj500) 上の画面では、いまスペイン語で始まっており、徐々に英語、フランス語、イタリア語に拡大されるでしょう。同財団の目的は、設立したサイトが生誕500年記念を効果的に宣伝するとともに、さらに世界中ですでに準備にとりかかっている全ての人々が参加できる正規のフォーラムとして役に立つことです。

ツイッターのアカウント <https://twitter.com/STJ500>は、現在1、000 以上の状態です。このツイッターは、生誕500年記念に関して起きている全ての事柄を迅速かつ効果的に伝えることが可能なツールです。また140文字以内で聖テレジアの言葉や祈りが伝えられることにより、さらに価値あるものとなるでしょう。

このウェブページは、生誕500年記念祭の準備を助け、聖テレジアの著作の再読、祈り、音楽、徹夜、カテキズムなどを通してサービスを提供し続けるウェブツール[www.paravosnaci.com](http://www.paravosnaci.com)とともに作動しています。さらに10月から、視聴者は、日曜日の霊的読書 (lectio divina) を楽しむことができます。



[Santa Teresa](#) [Fundación V centenario](#) [Noticias](#) [Únete](#) [Ávila](#) [Lugares Teresianos](#) [Patrocinadores](#)



#### PROGRAMA

Exposiciones y artes plásticas  
Música  
Artes escénicas  
Turismo religioso y cultural  
Científico

#### TWITTER

Tweets

[Seguir](#)



**“Procuren ir comenzando siempre de bien en mejor”. Las Carmelitas Descalzas de Telde se preparan para el V Centenario**

Las Madres Carmelitas Descalzas de Las Medianías en Telde han comenzado ya los



**Se restaura el patrimonio Carmelita para el V Centenario del nacimiento de Santa Teresa**

Alicia García, consejera de Cultura y Turismo de Castilla y León, ha visitado esta mañana las obras de restauración realizadas por la



**Domingo Aranda Muñoz: “Caravaca ha estado marcada por los pasos de la Santa”.**

Domingo Aranda Muñoz, alcalde de Caravaca de la Cruz, nos guía por las Huellas de Teresa en la quinta ciudad santa del mundo



# 奥村一郎選集

## 追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を  
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



### 慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ/小事と瑣事/禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



### 多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交渉から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け—宗教対話/日本人とキリスト教—遠藤文学の魂

第3巻



### 日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学—根源への問い/相互愛/「信ずる」と「愛する」/新しい掟

第4巻



### 日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造/「ことば」から「みことば」へ/聖書と翻訳

第5巻



### 現代人と宗教 解説・鶴岡實雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教/偶像の喪失/屈辱/「新しい人」としての真人

第6巻



### 永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛—人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰/人間の栄光と悲惨/神は死せり/十字架の秘義/人間と世界と神

第7巻



### カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア/十字架のヨハネ/小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



### 神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り/現代における祈りの指導者/祈りとは何か?

第9巻



### 奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾/世を変えるパン種として/清貧の誓願/現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

**オリエンズ宗教研究所** 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

**TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322**

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# カルメル会の企画案内



## 上野毛霊性センター ～ ‘15年3月

黙想企画 \*\* 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

### 1. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

9月11日	聖体の秘跡	ベルナルド神父
10月9日	人となられたみことば	九里 彰神父
11月13日	キリストのからだなる教会	福田正範神父
12月4日	無原罪のマリア	九里 彰神父
2015年		
3月5日	洗礼と主の晩餐	福田正範神父

### 2. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

10月31日	永遠の命への憧れ 聖テレジア	九里 彰神父
2015年		
1月16日	聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)	福田正範神父

### 3. 奉献生活者の為の黙想会

10月10日 (金) 18時～10月19日 (日)	福田正範神父
12月27日 (土) 18時～2015年1月5日 (月)	福田正範神父

### 4. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

11月22日 (土) 15時～24日 (月・振休) 16時

### 5. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

9月13日 (土) 15時～15日 (月・振休) 9時 ※変更されました

### 6. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

11月1日(金)20時～3日(月)16時「慈しみの愛と祈り」



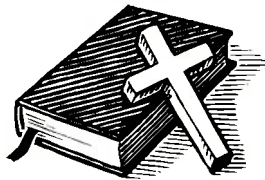
7. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
2014年12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》

8. 聖週間前の黙想会

2015年

3月19日(木) 18時～22日(日) 16時「十字架の神秘」 福田正範神父



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。  
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、  
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

# 木曜黙想会

---

## 「聖体の秘跡」

日 時： 2014年9月11日（木） 10時～16時

指 導： ベルナルド 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院  
（黙想の家）

会 費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1789

Eメール：[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

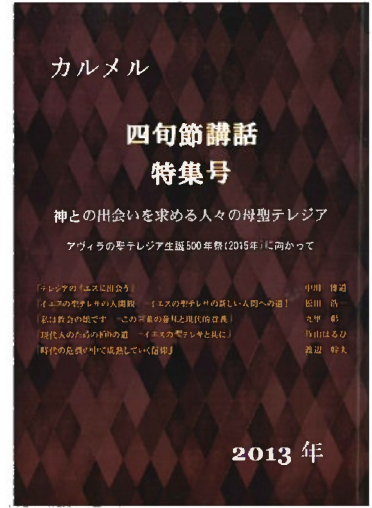
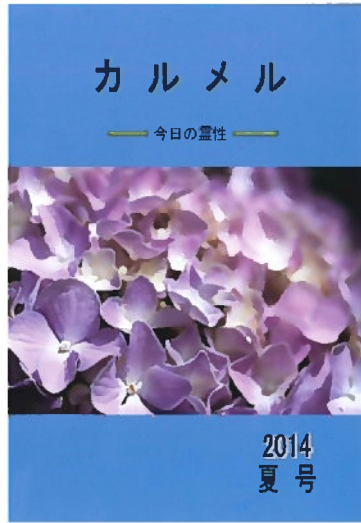
お申込み・・・\*黙想会の3か月前より申込みを受付します

FAX、メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

「カルメル」  
今日の霊性・夏号  
四旬節講話特集号



2014 夏 No.353

カルメル 2013 特集号

「神との出会いを求める人々の母  
聖テレジア」

● 目次 ●	テレジアのイエスに出会う	中川博道	2
	イエスの聖テレサの人間観	松田浩一	12
	「私は教会の娘です」	九里 彰	24
	現代人のための祈りの道	片山はるひ	37
	時代の危機の中で成熟していく信仰	渡辺幹夫	51
● 目次 ●	● 今年の特集 聖テレジアと他の聖人たち ●		
	自分の内に生きることなく生きる	九里 彰	3
	二人の聖テレジア	伊従信子	9
	エディット・シュタインと聖テレサ	須沢かおり	17
	修道院の窓から	原 造	25
	聖なる冒険	ポーリン・フェルナンデス	29
	福者		
	ルイとゼリ	中山真里	39
	ローマ物語	高橋重幸	44
	西行と芭蕉の霊性	田畑邦治	50
	神が慈しまれた道	奥村一郎	56

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円(+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

## 2014年～2015年 黙想会案内（宇治カルメル会）

### 【一般のための黙想】

・1泊2日（午後5時～午後4時）

9月 6日(土)～ 7日(日) 神の慈しみの歌

松田浩一神父

11月 1日(土)～ 2日(日) 死についての黙想

今泉健神父 **中止**

2015年 1月 10日(土)～ 11日(日) 神の栄光・生きている人間

松田浩一神父

### 【聖書深読黙想会】

・1日（午前10時～午後4時）

9月 13日(土)

九里彰神父

11月 29日(土)

九里彰神父

2015年 2月 7日(土)

九里彰神父

### 【水曜の黙想】

・1日（午前10時～午後4時）

9月 17日(水)

福音的な小さい道

渡辺幹夫神父(変更)

9月 24日(水)

10月 8日(水)

キリストの教え(神と共に歩む)

松田浩一神父

11月 12日(水)

死者の月に祈る **人生の秋**

中川博道神父(変更)

12月 17日(水)

テレサと祈り

松田浩一神父

2015年 1月 14日(水)

神の国は近づいた

今泉健神父 **未定**

2月 11日(水)

キリストの教え(神と人間の尊厳)

松田浩一神父

3月 25日(水)

神のお告げ

今泉健神父 **未定**

### 【四旬節の黙想】

・1泊2日（午後5時～午後4時）

2015年 2月 28日(土)～3月 1日(日)

3月 28日(土)～3月29日(日)

### 【待降節の黙想】

・1泊2日（午後5時～午後4時）

2014年 12月13日(土)～12月14日(日) 神の子の誕生

九里彰神父

### 【聖テレーズの黙想】

・1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 9月30日(火)～10月 1日(水)

伊従信子師

### 【カルメル青年の集い】

・1泊2日 (午後5時～午後4時)

~~11月23日(土)～11月24日(日)~~

11月15日(土)～11月16日(日)

神の慈しみの体験(イエスの聖テレサと共に) 松田浩一神父(変更)

### 【一般のためのカルメルの霊性入門】

・1泊2日 (午後5時～午後4時)

10月 14日(火)～10月 15日(水) イエスのテレサ生誕 500 周年開始 松田浩一神父

### 【奉献生活者の黙想】

2014年 (午後5時～午後9時)

12月27日(土)～ 1月 5日(月)

松田浩一神父

[『社会人\(働いている人\)のための霊的同伴』](#) → 別紙参照

祭日のミサに参加するために

### 【クリスマス】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(水)～12月25日(木) [講話なし、各食事つき]

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457

E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

# 聖テレーズの黙想会

2014年9月30日(火曜日)5時—10月1日(水曜日)4時

～テレーズとともに祈る～



**「わたしは死ぬのではありません。 命に入るのです。」**



**平凡な日常生活で テレーズとともに**

**真の命を生きるために静かなひと時をもちませんか？**

指導：伊従 信子 (いより のぶこ)

参考書： 聖書(新約)、『弱さと神の慈しみ』伊従信子編著(サン・パウロ社)

参加費： 6500円

申し込み：宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

611-002 宇治市木幡御蔵山39-12

Tel 0774-32-7016. Fax 0774-32-7457

e-mail:teresiauji @mountain.ocn.ne.jp



# 『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

## — 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 人

### 【開催日】

- |   |       |                  |
|---|-------|------------------|
| ① | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土)  |
| ② |       | 2月21日(金)～22日(土)  |
| ③ |       | 3月28日(金)～29日(土)  |
| ④ |       | 6月 6日(金)～ 7日(土)  |
| ⑤ |       | 7月 4日(金)～ 5日(土)  |
| ⑥ |       | 9月12日(金)～13日(土)  |
| ⑦ |       | 10月 3日(金)～ 4日(土) |
| ⑧ |       | 11月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑨ |       | 12月 6日(金)～ 7日(土) |



(毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)

【参加費】 各回 6,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457  
E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



イエスの聖テレサ (テレジア) 1515年3月28日生

生誕 500 年記念の年

〈2014年10月15日~2015年10月15日〉

**主なプログラム〈関西地区〉**

**2014年10月15日(水) 午前11:00 開始ミサ <宇治カルメル修道院>**

**11月1日 (土) 午後 2:30 講話(Fr.松田) <京都カテドラル>**

テーマ: 16世紀スペインから輝く福音の光、聖テレサ

**12月13日 (土) 午後 2:30 講話(Fr.中川) <京都カテドラル>**

テーマ: テレジアの希望による福音

〈2014年1月、2月も講話予定〉

**2015年 3月21日(土) 午後 2:00 マキシミリア/神父(テレジア専門家)**

講演会<京都カテドラル>

**2015年 8月10日~8月14日 カルメルファミリー国際交流会**


スペイン・アウイラで開催!!

尚、8月5日~8月9日まで、テレサの生誕500年記念のためにスペイン司教団・カルメル会共催のヨーロッパ青年大会が同じ場所で開催される。

詳しい情報は下記のところへ!

611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12 カルメル会修道院

担当 松田浩一神父

TEL 0774-32-7456 FAX 0774-32-7457  [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

## 霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 276 - 7788



## 2014年度 名古屋カルメル霊性センター《都会の中の一静修》

2003年から始まりました《都会の中の一静修》は、今年で12年目を迎えることになりました。

カルメル会は、今その聖女、イエスの聖テレサ（アヴィラの聖テレジア）の生誕500年（2015年）を祝おうとしています。そのために、世界のカルメル会は聖女の著作を読み返しながら、その霊性を味わおうとしています。

幸いなことに、日本のカルメル会も、昨年および一昨年の四旬節講話で、聖女の霊性をいろいろな視点で味わい深めて、参りました。それらを振り返りながら、いろいろな切口で、聖女の霊性の中に浮かび上がるカルメルの霊性、さらにはキリスト者としての霊性を味わい深めることができたらと願っております。

### 《2014年度の年間テーマ》

「聖テレジア（アヴィラ）の私たちへのメッセージ」

—2015年：生誕500年に向かって—

- 第1回静修 1月13日（月・祝） 『テレジアが出会ったイエスを訪ねて』  
中川博道神父（宇治修道院）
- 第2回静修 3月1日（土） 『靈魂の城』  
今泉健神父（上野毛修道院）
- 第3回静修 5月31日（土） 『小品集』  
古川利雅神父（日比野修道院）
- 第4回静修 7月21日（月・祝） 『私は、あなたのために生まれた』：  
：人間の召命に生きる 松田浩一神父（宇治修道院）
- 第5回静修 9月23日（火・祝） 『アヴィラの聖テレジアと祈り』  
Sr. Paulne（宣教カルメル会修道院）
- 第6回静修 11月3日（月・祝） 『テレジアと出会った十字架の聖ヨハネ』  
九里彰神父（本部修道院）

- \* 時間 AM10:00～PM4:00
- \* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分  
聖テレジア幼稚園隣接)
- \* 参加費 1,000円
- \* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当など
- \* 定員 約30名

- \* プログラム
  - 10:00～ 祈り・導入・黙想
  - 10:30～ 講話(1)  
黙想・赦しの秘跡または面接
  - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
  - 12:15～ 昼食
  - 13:00～ 黙想・赦しの秘跡または面接
  - 13:30～ 講話(2)
  - 14:45～ ミサ
  - 15:30～ 茶話会・分かち合い
  - 16:00～ 終了予定

☎申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELなどを記載の上、  
(信徒の方は所属教会も記入)開催日の3日前までに、下記へご送付ください。

なお、日比野教会で葬儀などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆カルメル会日比野修道院

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17  
FAX 052-671-1825

☆ 問い合わせ先

小林 TEL052-701-3685

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ  
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)



# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2014年予定

- M2 9/9 (火) -9/15 (月) 宝塚売布・女子御受難会
- K4 9/27 (土) -10/3 (金) 東京・小金井・聖霊会
- N3 10/26 (日) -11/1 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K5 11/29 (土) -12/05 (金) 東京・小金井・聖霊会

#### 2015年予定

- K1 1/17 (土) -1/23 (金) 東京・小金井・聖霊会
- M1 2/7 (土) -2/13 (金) 宝塚売布・女子御受難会
- N1 2/23 (月) -3/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K2 3/14 (土) -3/20 (金) 東京・小金井・聖霊会
- N2 4/30 (木) -5/6 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K3 6/12 (金) -6/14 (日) 東京・小金井・聖霊会
- T1 7/20 (月) -7/26 (日) 兵庫西宮・トラピスチヌ

祈りの集い (午前10時～午後3時)

真命山の霊性

「聖母マリアと共に祈る」



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから 祈り  
陽の沈むところまで



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を 分つ 交わり

1月 9日	天使からのお告げをお受けになった時の聖母マリアの祈り
2月13日	エリザベットを訪れられた時の聖母マリアの祈り
3月13日	神の子イエスをお産みになった時の聖母マリアの祈り
4月10日	羊飼いたちや博士たちの訪問をお受けになった時の聖母マリアの祈り
5月 8日	聖ヨセフと共に神殿に登ぼり、イエス様をお捧げになった時の聖母マリアの祈り
6月12日	聖ヨセフと共にエジプトへ逃れられた時の聖母マリアの祈り
7月10日	聖ヨセフと共に神殿でイエスを見つけられた時の聖母マリアの祈り
8月	休み
9月11日	ナザレで聖ヨセフとイエスとご一緒の時の聖母マリアの祈り
10月 9日	イエスを探しに行かれた時の聖母マリアの祈り
11月13日	イエスの十字架のもとでの聖母マリアの祈り
12月11日	イエスの弟子たちと共に祈られた時の聖母マリアの祈り

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。  
(要予約)

## リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2014年

### ●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

### ●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、  
9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、  
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2014年度のテーマ: 超越理解と理性の自己発見  
— II 近世・近代・現代

「中世: 哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)  
[中世末期]

09/06,09/13,09/27,10/18,10/25,11/08,11/15,11/29,12/06,12/20, 2015年

01/10,01/17,01/24,01/31,02/07

### ●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂

### ●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月5日は休み。

・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。

どなたでも。但し祝日、4月30日、7月30日、8月全体、12月24日は休み。

・「通う霊操」8月23日(土)～8月31日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

### ●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。

9月13日、10月18日、11月15日、12月6日、  
2015年1月10日、2月7日、3月14日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

### ●黙想会

[1泊6,600/7,000円程度

[関東]

2014年

10月11日(土)10時～12日(日)14時(東村山)

11月22日(土)10時～23日(日)14時(東村山)、

2015年

02月28日(土)10時～3月1日(日)14時(上石神井)。

[関西]

10月4日(土)13時30分～5日(日)15時(宝塚)。

### ●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 17時30分～20時10分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。

但し祝日、4月17日、4月28日、5月1日、7月31日、8月全体、9月22日、12月29日は休み。

### ●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

09月19日(金)20時30分～23日(火)10時

10月31日(金)20時30分～11月3日(月)10時

[関西]

7月30日(水)17時45分～8月5日(火)15時、宝塚市。

### ●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。

10月25日(土)、2015年1月25日(日)

・黙想会(アガペ会会員対象)6月7日(土)10時～8日(日)14時(東村山)、1泊6,600円程度。

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2014年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

08/23-31 ●通う霊操(18時-20時45分)

(上智大学内クルトゥルハイム2階)

08/29 イエスの受難— その史実と意図

(上智大学内クルトゥルハイム2階)

09/05 イエスの死— その救済的意義

09/12 聖書のイエス像— ヨハネとパウロの見た  
イエス

09/19 イエスの復活— 今に生きるイエス

09/26 聖霊— 神の愛に導かれる

10/03 祈りの本質とさまざまな祈り方— 神と関  
わる

10/10 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる

10/11-12 ●黙想会(東村山)

10/17 教会の成立と意味— イエスを中心に集  
う

10/24 人間としてのイエス— 新しい人間像の基  
礎づけ

10/31 御子としてのイエス— イエスの神との関  
係

11/07 父と子と聖霊— 神の生命に与る

11/14 信仰の決断— 支えられて生きる

11/21 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧

11/22-23 ●黙想会(東村山)

11/28 自己実現と神の意志— 生き方の規範

12/05 人間の弱さ— 罪とは何か

12/12 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける

12/13 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30  
分パーティ、岐部ホール4階404、要申し込み)

12/19 愛の心— キリスト教の本質

12/23 ◆クリスマスミサ(14時、上智大学内クル  
トゥルハイム2階、80人限定)

12/26、1/2〇休み

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2014年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[人間]

08/23-31 ●通う霊操(18時-20時45分)

09/02 将来の約束— 自立した世界の中の導  
き

[イエス]

09/16 史的イエス— 活動と生き方の特徴

09/30 神の国— イエスの使信

10/07 根本たる愛— 律法の完成と克服

10/11-12 ●黙想会(東村山)

10/21 受難による救い— イエスの救済的役割

11/04 死からの命— 復活の認識・経験・理解

11/18 キリストはだれか— キリスト理解の発展

11/22-23 ●黙想会(東村山)

12/02 御子の受肉— 神の子と人の子

12/13 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分  
パーティ、岐部ホール4階404、要申し込み)

[聖霊]

12/16 神の内的現存— 人間における聖霊の  
働き

12/23 ◆クリスマスミサ(14時、クルトゥルハイム2  
階、80人限定)

01/06 三位一体の神— 救いの構造から神内  
の存在へ

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

[http://www.jesuits.or.jp/~j\\_riesenhube/](http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/)



## いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

### ●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

9月13日 テレーズの祈り

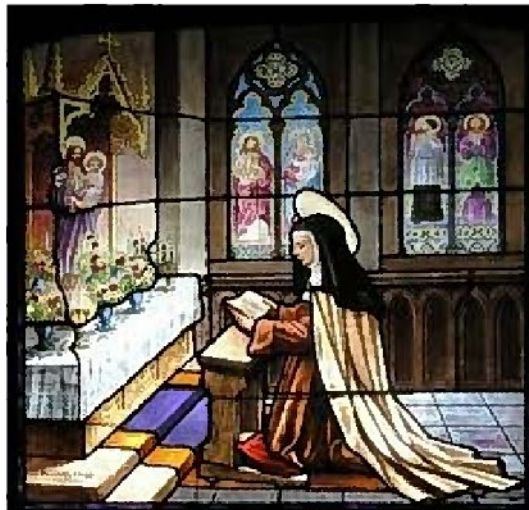
講話 伊従 信子  
午後2時～午後5時30分位まで、  
講話、祈り、分かち合い。  
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ  
ノートルダム・ド・ヴィ  
〒177-0044  
練馬区上石神井4-3  
2-35

TEL(03)・3594・2247  
FAX(03)・3594・2254  
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com  
ホームページ  
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2014年 4月29日(火)～ 5月7日(水)
- ② 8月14日(木)～ 8月22日(金)
- ③ 10月25日(土)～ 11月2日(日)
- ④ 12月27日(土)～ 2015年1月4日(日)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2014年 2月7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月2日(日)
- ③ 3月21日(金)～ 3月23日(日)
- ④ 6月20日(金)～ 6月22日(日)
- ⑤ 7月18日(金)～ 7月20日(日)
- ⑥ 9月26日(金)～ 9月28日(日)
- ⑦ 11月28日(金)～ 11月30日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2014年 5月26日(月)～ 6月3日(火) 藤原 直達 師 (大阪教区)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

主よ、お話してください。僕は聞いております。

聞くものである私

2014年度 第二回 召命黙想会

日時： 9月 13日(土) 15:00~

14日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院

(JR 京都駅から 30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,000円

締切： 2014年9月7日(日)まで

<申込み・問い合わせ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

*Sr.桂川*

Tel: 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email: Karainorind92@mbe.nifty.com

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
サダナ I	9/12(金)17:30- 15(月)16:00	Fr植栗	シャルトル聖パウロ会 盛岡修道院	伊藤律子 Tel 090-4478-0088
サダナ II	9/19(金)17:30- 9/23(火)16:00	Fr植栗	那須・聖ヨゼフの家	若山美知子※ Tel & Fax 03-5802-3844
入門 A	9/28(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナ II	10/9(水)17:30- 13(月)16:00	Fr ラフォン ト	女子御受難会修道院 (宝塚市)	大倉本子 Tel 078-811-2706
サダナ I	10/31(金)17:30- 11/3(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会東 京修道院(東村山)	若山美知子※
入門 B	11/9(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
日帰り フォロー アップ	11/30(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナ I	2015 1/9(金)17:30- 1/12(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会東 京修道院(東村山)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A. B. C) 体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II  
Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。



# 祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて  
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00  
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

9月11日（木）『靈魂の城』第六の住居・第五章  
11月13日（木）、12月11日（木）

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。  
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。



# 祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



\* Br.田中は、日々の出会いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

## 〔収録内容〕

- 九里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録



オリエンズ宗教研究所 編  
ISBN 978-4-87232-085-5 C0016  
A5判・200頁・本体価格1600円+税

全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

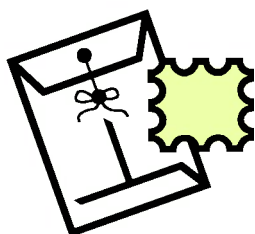
オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*



ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



### 編集後記

8月26日から9月3日まで、「拡大総長顧問会」（臨時総長顧問会）が韓国の Teseong-Myeon で開かれます（この原稿は、その前に書いております。ちょうどこの『霊性センターニュース』の製本日からですね）。通常の総長顧問会は、総長と8人の総長顧問達で開かれますが、今回は、全世界のカルメル会の管区長がこれに加わり、来年の5月アピラで開かれる「総会議」（6年に一度）の準備会議となります。

来年の「総会議」では、総長、総長顧問達の選挙があり、2015年以降の6年間、2021年までの全カルメル会の歩みが方向づけられます。非常に大切な会議となりますので、そのために準備会議が開かれるわけです。ローマから総長、総長顧問、総長館の職員たち、それに全世界の管区長たちが加わり、総勢120名前後になります。韓国カルメル会は、この準備に大わらわでしょう。大変な準備をしている彼らの上に、またこの「拡大総長顧問会」の上に、聖霊が豊かに注がれるようお祈りください。

(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「10月号」製本日 **9月30日(火)** 上野毛教会信徒会館ホール1階  
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171